

高洋商事株式会社



高洋商事株式会社さんは、香川県東部では、唯一の生地の特約商社で、主にアパレルの大元となる生地の設計や素材を専門に扱っている会社です。全国に取引がありますが、東かがわ市向けとしては、手袋用途の素材を取り扱っています。

今回は、取締役 吉岡忠助氏に脱炭素社会へ向けた取り組みについて伺いました。

①現在の取り組みについて教えてください。

当社は商社であるため、他社にモノを作ってもらいそれを販売している会社です。よって、自社だけでアクションを起こしても脱炭素への効果は少ないため、また、環境負荷についてはアパレル産業の構造的な課題解決が必要との認識から各社を巻き込みながら取り組んでいます。

まず1つめに、環境に配慮することと機能性を両立させた素材を使用し、生地の設計や提案に力を入れています。

2つめは、天然の再生繊維に力を入れています。天然素材である綿を刈り取ったものが、みなさんが普段使うコットンという素材になっているのですが、刈り取った後の種子に残るうぶ毛を溶かして使うと再生繊維に生まれ変わります。石油由来のものとは違って、天然のものを生まれ変わらせて、機能性を加えるのです。石油由来のものは再生リサイクルする時にもエネルギーを使ってしまいます。廃棄するときにしても土に還る素材のほうが環境に資すると考え、天然繊維からの再生繊維を使っています。

以上の2つが大きな柱です。

また、商品を流通させるときに、いろいろな経由地を使うとその分、輸送コスト（＝エネルギー）がかかるので、できるだけ経

由地を減らすということで、CO₂の削減につなげています。

その他にも、マイボトルの普及をさせたいと思い、メーカーの協力を得て、自社に浄水器付きの給水スポットを設置しています。マイボトルを持ち歩いても、空になって汲めるところがないと、結局ペットボトルを買って補給することになってしまうので、もっと増えてほしいと思います。



※誰でもマイボトルに浄水を汲めるよう給水スポットを設置
脱炭素の取り組みとして自転車文化の訴求のための休憩スポットを併設

それから、ビジネスから離れるわけではないですが、ワンハンド瀬戸フレンドという環境プラットホームを立ち上げています。瀬戸内海の海岸を巡回して、学びのあるクリーンアップイベントを開催しています。

経営者や社員、家族、子どもなどいろいろな方々が、毎回 30～50 人程度参加してくれます。ただ、ゴミを拾うだけではなく、毎回その後に、ワークショップを設けています。環境問題の入り口として参加しやすいのはビーチクリーンだと思っていて、なぜならゴミはみんなの課題だからです。生活している以上、ゴミは出ます。それは事業をしても同じことです。そういった意味で我が事として捉えられと思います。特に、子どもたちは経験を通じて得た気づきを生活の中に取り入れるので、子どもたちの ESD 環境教育にもつながります。



ビーチクリーンプラットフォーム
「ワンハンド瀬戸フレンド」

②取り組みのきっかけについて教えてください。

私が環境問題について取り組むきっかけとなったことは3つあります。

私は、東かがわ市で生まれ育っているのですが、子どもの頃、海岸を友達とよく歩いていました。その際に、海が汚染によって部分的に赤や緑、紫などのカラフルな色になっている現状に心を痛めたことが、最初に関心を持ったきっかけです。

その後、学生時代に外国に行くことや外

国人と交流する機会が増えていく中で、日本は当たり前水道水が飲めるが、それは稀有なことなだと知り、これからもそれを守っていかなければならないと思ったことが2つめのきっかけです。

さらに、ファストファッション（流行を取り入れつつ、低価格に抑えた衣料品を大量生産し、短いサイクルで販売するビジネスモデル）の時代になり、生産された服の4～6割とも言われる量がみなさんの袖を通すことなく捨てられているという現状に、業界の構造的な問題というのを感じ、まずは、気づいた人たちだけでも、何かに取り組んでいかないと大変なことになると思ったこともきっかけの1つです。

③取り組みの影響や効果などはどうでしたか。

素材の分野で言うと、SDGs や ESG、環境投資を抜本的に取り組むというのは難しいので、まずは先でも述べたような土壌へ還元しやすく生分解性が高い素材を使うことが第一歩になると感じていて、その認識が少しずつ広まっているように思います。

ワンハンド瀬戸フレンドの取り組みで言うと、最初は賛同してくれる仲間3人とスタートしたのですが、今では10代から50代まで住んでいるエリアや国籍、職業も含めダイバーシティな10名のメンバーが集まっています。スタッフだけでもメンバーが増えると大きな力にもなりますし、巻き込む人が増えることでどんどんと輪が広がってきているのが感じられました。我々のイベントに参加して楽しんで取り組むことで、おのずと解決策が見えてくると実感し

ています。だから、楽しさの訴求をすることで輪が広がってきてアクションがより深くなってきているというのは、取り組んできて良かったことだと思います。海ごみ活動は人生を豊かにしてくれるコミュニティだと考えています。

※SDG s・・・Sustainable Development Goals の略で、「持続可能な開発目標」と訳される。SDG sには17の目標があり、それらをもとにした詳細な169のターゲットが設定されている。「誰一人取り残さない」社会の実現という目標が掲げられている。

※ESG・・・Environment（環境）Social（社会）Governance（企業統治）の頭文字をとった略語。企業を中長期的に成長させ続けていくためには、これら3つの視点が欠かせない要素である。

④今後の予定について教えてください。

小さな積み重ねが大きな課題の解決につながることは間違いないと実感しています。いろいろな層の意見を聞きながら、場所を変えたり、内容も毎回ブラッシュアップしながら楽しく続けていきたいと考えています。

また、学校や市民の方なども巻き込みながら活動していけたらと考えています。活動にあたって大切なクレドの1つとして、立場が変われば考え方・捉え方も変わることから特定の集団・個人にフォーカスするのではなく、他人事ではなく自分事として各自がアクションプランを起こしていくことを大切にしています。

さらに、個人としても香川県から委嘱を受けている香川県海岸漂着物対策活動推進員として、マイクロプラスチック問題を柱として、そこに付随するカーボンニュートラルや資源リサイクルなど構造的な課題に取り組んでいこうと思っています。

⑤これから、取り組みをしようと思っている事業者へのアドバイスなどがありますか

ESG投資は大切ですし、会社のCSRの評価につながります。ただ、一社だけで一朝一夕に解決する分野でもないので、輪になって取り組むことが大切です。

私たちの活動を大きな輪にするために、ぜひ、ワンハンド瀬戸フレンドに参加してほしいと思います。

まずは、このようなクリーンアップに参加していただくだけでも、それが翻って自社のESGの部分でも大きな一歩になると考えています。関わる人間一人ひとりが自分事に落とし込んでから取り組んだ活動は本物になっていくと思いますので、ぜひ一緒に取り組んでいけたらと思います。

※CSR・・・

Corporate Social Responsibility の略で、企業活動における社会的責任を表している。企業が自社の利益を追求するだけではなく、自らの組織活動が社会へ与える影響に責任を持ち、あらゆるステークホルダーからの要求に対し、適切な意思決定をすること。

Interview



吉岡 忠助（よしおか ただすけ）さん

高洋商事株式会社 取締役

いつも持ち歩いているビーチクリーングローブを手に

所在地

高洋商事株式会社

〒769-2702 香川県東かがわ市松原1153-1